

# 第16回 戦略推進会議（3月27日、28日）における 有識者からのご指摘等について

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局  
未来革新研究推進担当



## 目標 2 超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現

### 有識者からのご指摘等

#### 今後の臨床研究を見据えたインパクトのあるテーマへの集中などターゲットやポートフォリオの見直しの検討

- ・ 今後、人への臨床研究に入るとお金がかかることになる。このまま、すべてのテーマを継続していくのか、優先順位をつけるといった考えはあるのか。
- ・ 数理分野の重要性について、プログラムがスタートした5年目に比べると圧倒的に外部環境変化が大きく、当初想定していたものより数理分野でのブレイクスルーが可能になっている。これらを踏まえて、抜本的にプログラム全体の構成の見直しや、資源配分を変える必要があるのではないか。
- ・ 超早期の定義について、疾病によって進行速度が異なる中でどのくらいの期間をもって「超早期」というのか、イメージし難い。

#### 臨床研究に向けた考え方の整備

- ・ 非常に早く疾病を予兆することで予防法が出来るか、より高い治療効果をあげられるか、この二つのどちらかがないと早く知っても意味がない。

#### 数理・データベース×メディカルへの支援の拡大、目標 2（超早期予測・予防）と目標 7（健康寿命）の連携

- ・ AI分野の発展が著しい中で、この分野におけるAI研究者の人材は多くない。そういった意味でも目標 7との目標間連携が必要。
- ・ 得られたデータは貴重。海外との温度差を実感
- ・ 数理を応用したライフサイエンスは世界中ですさまじい投資競争となっている。少しずつやっていますでは、全然追いつかないものがたくさん出てくる。人材についても、日本は決定的に不足しており、これまでライフサイエンスに従事していないデータサイエンティストを大量に引っ張り込むなど、大胆な動きを取るタイミングではないか。

# 目標 6 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現

## 有識者からのご指摘等

### 誤り耐性型量子コンピュータの早期実現に向けたターゲットやポートフォリオの見直しの検討

- ・ 国際連携が鍵となり、経済安全保障の対象となる中で、国際的なオープンとクローズの戦略をどう捉えるのか。
- ・ 5つのハードウェア方式において、企業は参画しているのか。
- ・ アーキテクチャの分野など人材が不足している中でどう確保するのか。
- ・ 行きつく先の未来として、人工光合成や人工窒素固定と言った言葉が出ているが、それらも含めて人間社会にどういう影響を与える研究なのか、分かりやすく示すべきではないか。
- ・ 限られた予算と限られた人材の中で、ハードウェア方式の選択と集中といった考え方もあるのではないか。

### 人材育成の強化

- ・ MSでは、全プロジェクトに対し若手の人材育成を強化するよう、運用・評価指針の一部改定が予定されているが、目標 6 においては、グローバルな人材も必要と思うがそれらを含めた戦略はどう取るのか。